

## 令和4年臨時真庭市教育委員会会議録

会議種類	臨時会	
開催年月日	令和4年11月30日(水)	
開会及び閉会時刻	開会時刻	13:00
	閉会時刻	13:16
場所	真庭市本庁舎3階 教育委員室	
会議録署名者	教育長 三ツ 宗宏	
	署名委員 常本 直史	
会議録作成者	教育総務課 上級主事 美甘 仁美	

### 1 出席委員

職 名	氏 名	備 考
教 育 長	三 ッ 宗 宏	
教育長職務代理者	井 口 利 美	
委 員	常 本 直 史	
委 員	徳 山 周 一	
委 員	高 谷 絵里香	

### 2 出席した者

職 名	氏 名	備 考
教 育 次 長	安 藤 紀 子	
教育総務課長	浅 野 晃 彦	
学校給食推進室長	丸 山 昭 良	
学校教育課長	秋 元 紀 幸	
生涯学習課課長	谷 岡 理 江	
図書館振興室長	黒 田 裕 子	
教育総務課上級主事	美 甘 仁 美	

### 3 傍聴人

な し



## 5 議事の概要

(13時30分 開会)

○三ツ教育長

これから臨時教育委員会を開催いたします。以下議事日程に従い進めてまいります。日程第1署名委員の指名ですが、今日は常本委員さんお願いいたします。

○常本委員

はい。

○三ツ教育長

続いて日程第2付議事件です。

前回、継続審議となっておりました、議案第37号 令和3年度教育に関する事務の管理及び執行状況の点検及び評価報告書について、お願いします。

○浅野教育総務課長

(資料により説明)

○三ツ教育長

ただいま説明がありました。第2次教育振興基本計画の総括という形であります。大きく前進した部分、課題として積み残した部分、あるいは新たに顕在化した部分、様々な分野におよびますけれども、委員の皆さんからご質問ご意見等ありましたらお願いします。

○井口委員

家でこの70ページ分の量を読ませていただいて、ざっとですけど2時間近くかかりました。これだけたくさんの分量を、よくまとめられたなと思い、本当

に大変な作業だったろうなと思い感謝しております。

この計画の5年間（この1年もそうですが）を振り返って、色々なことがあったと思います。特にコロナの感染拡大もあって、様々なことを臨機応変に対応しなければならず、またそのような中でも最初からの取り組みも初志貫徹していかなければいけないようなところもあって、マンパワー不足の中ですごく工夫されて動かれていたんだなと思いました。そして、評価もほとんどがA・Bできちんと達成されてきたことを、本当に努力の賜物だなと感じました。

大きな成果だと思うのは、「学校を地域の方に返していく」動きです。今、その途中だと思いますが、子供をみんなで育てるということを最も大事なことでして、これからの計画も続けていっていただけたらなというふうに思いました。

そして、いつも評価をしてくださる方が、本当に丁寧に理解してくださっていることにもすごく感謝しております。ぜひ色々なことを生かしながら、そして職員の方も過度な負担にならないように工夫しながら、これからも進んでいけたらなと思いました。ありがとうございました。

○三ツ教育長

ありがとうございます。他の委員の皆さんは、いかがでしょうか。

○徳山委員

1点いいでしょうか。P5 中段よりやや下の行（下から13行目）に、「この5年間を見ると、まず複式学級の解消20%という目標に対しては18%にとどまりました。小規模校関係者との意見交換では、小規模校の特徴は価値観やニーズによって強みにも弱みにもなるという意見が多く出されています。」とあって、これが現状ですよね。それから「第3次計画以降は、活動が活発化していく学校運営協議会や地域学校協働本部と全国の事例研究などを行いながら、ハード・ソフト両面から問題解消に努めていきます。」と続いているのですが、ここでの問題解消が指す問題というのは、「複式学級の解消」と捉えたらいいでしょうか。

○浅野教育総務課長

複式学級が今後増えていく・極小規模校が増加していくということが予想がされており、そうしたことで直面する課題に対して、地元（地域）の方や学校も含めて、そういった情報を共有しながら、我々も話し合い等を行い、解決していこうということです。そして、これからの学びの環境、子供たちの学びの機会をどのように支えていくかということ、ハード・ソフトの両面で共有していくということで進めております。

○徳山委員

では、強みにも弱みになるというところで、強みになる部分がこれから浸透させていかなければならない部分だと思いますが、そのソフト面と捉えていいのでしょうか。ハードというのはなんとなくわかりますが、ソフトというのは何を指しているのでしょうか。

○秋元学校教育課長

ここでのソフト面というのは、やはり一番は「人」であると思っています。人口の減少に伴って小規模校の児童生徒も少なくなってきました。ですから、今ある小規模校複式学級というものが増えていくということは、なかなか考えづらいです。ではそういった少ない人間関係の中で、どのように個を生かしていくのかという問題があります。例えば授業改善、もっと言えば学校運営の方向性というようなこともあろうかと思えます。それはまさに、学校運営協議会と地域学校協働本部の連携によって、今までと視点を変えることで、その子供たちにとってより良い学びというものを考えていけるのではないかと考えています。もちろんその中には小規模学校同士で繋がるというような発想の転換も必要だと思えますし、中学校区の小学校が繋がっていくですとか、地域の人と繋がるですとか、色々な方向性が今も実際動きはあるんですけども、そういった面がソフト面かなと思っています。そして、それを支える施設であったり、移動のバスであったりがハード面ではないかと考えています。

○徳山委員

わかりました。ありがとうございました。

○三ツ教育長

小規模校だから、複式だからということで、機械的に決めるという議論ではありません。きちんと地域と話をし、子どもたちにとってどうしていくことが幸せなのかということを中心にしながら、生かす部分は生かし、改める部分は克服していくということを進めていこうということでもあります。その他ありませんでしょうか。

個々にはやはり課題もありますが、本当に変化の激しい5年間だったというのをつくづく感じています。そうした中で、5年前に描いた姿を遂行していくということで、いくらか修正等しながらやってきました。そして、結果としてこういった到達点があるのですが、どちらかという、仕組みを一生懸命整えてきたという側面が強いと思います。ICTも5年計画を一気にやりました。また、コミュニティスクールにしても地域学校協働にしても同様です。では、これから内実どのように作っていくのか。丸投げではなく、どうしていくのか。これはやはり伴走支援とその運動自体を支えていくことを、これから大事にしていかなければならないと思っております。先ほどのソフト・ハードの話も、実はそこを一緒に考えて伴走するという事を行政だけでなく、市民レベルで、市民運動としての形を作っていきたいということでもあります。よろしいでしょうか。

それではお諮りいたします。議案第37号 令和3年度教育に関する事務の管理及び執行状況の点検及び評価報告書について、ご異議ございませんか。

○全員

はい。

○三ツ教育長

それでは、異議なしということで、原案可決でお願いします。

それでは、付議事件は以上です。他に委員の皆さんからなにかありますか。  
事務局より、他になにかありますか。

それでは、以上で臨時教育委員会会議を終了いたします。

(13時16分 閉会)